

第3学年1組 算数科学習指導案

1 単元 重さ「ものの重さをはかろう」

2 目標

- 重さの単位（g、kg、t）やメートル法の単位の意味について知り、測定する対象のおよその見当を付けて適切な計器を選択して重さを測定したり表したりすることができるようとする。
- 目的に応じて、普遍単位や事象の特徴に着目し、量を的確に表現する方法を考え説明したり、単位の関係を統合的に捉えたりすることができるようとする。
- 身の回りのものの重さを適切な計器を用いて測定し、単位を用いて適切に表現することのよさに気付き、生活に活用しようとする態度を育てる。

3 単元計画（8時間）

段階	配時	学習活動	手立て
見通す	1/8	<p>1 身の回りのものの、重さ比べをし、単元のめあてをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りのものの重さに関心をもち、重さ比べの方法を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・比べたいものを両手を持って、直接比較をして、重さ比べをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">重さはかせになって、いろいろなものの重さをはかろう。</div> 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の見通しをもることができるように、学習計画を立てる場を設定する。
	2/8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重さは、単位とする重さのいくつ分で表せることや「g」の単位を知り、身の回りの重さを測定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・任意単位でものの重さを表す。 ・普遍単位の必要性を感じ、「g」を用いて重さを表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普遍単位で表す良さを感じることができるように、任意単位で重さを表す活動を行う。
行う	3/8	<p>2 はかりの使い方を知り、ものの重さを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 kg はかりを使った重さのはかり方を調べ、ものの重さを測定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・はかりのめもりの読み方や正しいはかりの使い方を知って、1 kg までのものの重さを測定する。 ○ 重さの単位「kg」を知り、ものの重さを測定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・kg の単位を知り、1 kg を超えるものの重さを測定する。 ・1kg の重さを作り、量感をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ はかりの目盛りの数を正確に読むことができるように、実際にはかりを使う活動を設定する。
	4/8		
振り返る	5/8 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 測りたいものの重さについて、およその見当をつけ、適切な計器で測定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の測りたいものを選び、計器を選択して重さを測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ よその見当をつけて、正しく重さを量ることができるように、計器を選択する場を設定する。
	6/8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 箱に入ったものの重さを測定し、重さは長さやかさと同じように計算できることに気付き、重さの計算をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・重さの計算の仕方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重さの加法減法ができるように、量りに直接乗せることができない問題場面を設定する。
	7/8	<p>3 量の単位の関係について、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 長さ、かさ、重さの単位の関係に着目し、接頭語が表す倍の関係について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 接頭語が表す意味を考えることができるように、既習内容を想起する場を設定する。
	8/8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「重さ」の学習を振り返り、学習を確かなものにする。 	

4 主眼

測定物の重さのおよその見当を付けて、秤量や感量に気を付けて計器を選択し、実際に量る活動をすることで、正しく重さを量ることができるようになる。

5 本時過程 自己選択・自己決定の場（つなぎタイム）

段階	学習活動・予想される児童の反応	手立て（○）と評価（◇）	配時								
導入	<p>1 ものの重さを予想することで、本時のめあてをつかむ。 ・大きなものの重さだから、1 kg を超えそうだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 重さを予そうして、ものの重さを正しくはかる。 </div> <p>2 自分の量りたいもののおよその重さを予想して、重さを量り、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既習内容の振り返りをし、見通しを立てる。 【見方】何 kg まで量ることができるか 【考え方】100 g、500 g、1 kg、2 kgをもとにして、重さを予想する <p>○ 予想した重さをもとに、計器を選択して、重さを量る。</p> <p style="text-align: center;">【方法選択】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">根拠</td> <td style="padding: 5px;">筆箱の重さは、1 kg より軽そ うだな。</td> <td style="padding: 5px;">タブレットの重 さは 1 kg と 2 kg の間ぐらいかな。</td> <td style="padding: 5px;">中身の入ったラ ンドセルの重さ は 2 kg より重そ うだな。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">方 法</td> <td style="padding: 5px;">1 kg ばかりを 使って量る。</td> <td style="padding: 5px;">2 kgばかりを使 って量る。</td> <td style="padding: 5px;">4 kg ばかりを 使って量る。</td> </tr> </table> <p>【個別と協働の一体的充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で知りたいものを選び、重さを量る。 ・2 kgばかりで量ってみたが、2 kgのめもりを超えることが分かったので、どうすればよいか友達に聞いてみる。 ・同じものを量った友達と重さを伝え合って、確かめる。 <p>○ 自分の量ったものの重さを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆箱は 1 kg より軽いと予想したので、1 kg ばかりで測ると、450 g でした。 ・タブレットは 2 kg より重いと予想したので、4 kg ばかりで量ったけれど、2 kg より軽かったので 2 kg ばかりで量ると、1 kg 345 g だと分かりました。 <p>3 1 kg 500 g になる、ものの組み合わせを班で考える。 ・ペットボトルと、ボールで 1 kg 500 g になりそうだ。</p> <p>4 本時のまとめをし、学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 重さの予想をしてちょうどよいはかりで重さをはかる と、正しく重さをはかることができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどよいはかりを使って重さをはかると、正しく重さをはかることができると分かった。1 kg をもとに重さを予想すると、ちょうどよいはかりを選ぶことができてめもりが見やすかつたからです。 	根拠	筆箱の重さは、1 kg より軽そ うだな。	タブレットの重 さは 1 kg と 2 kg の間ぐらいかな。	中身の入ったラ ンドセルの重さ は 2 kg より重そ うだな。	方 法	1 kg ばかりを 使って量る。	2 kgばかりを使 って量る。	4 kg ばかりを 使って量る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きくて軽いものや小さくて重いものの重さ予想をすることで、重さの見当をつけて実際に触って量るというめあてをつかむことができるようになる。 	5
根拠	筆箱の重さは、1 kg より軽そ うだな。	タブレットの重 さは 1 kg と 2 kg の間ぐらいかな。	中身の入ったラ ンドセルの重さ は 2 kg より重そ うだな。								
方 法	1 kg ばかりを 使って量る。	2 kgばかりを使 って量る。	4 kg ばかりを 使って量る。								
展開		<ul style="list-style-type: none"> ○自分が選んだものの重さを 100 g、500 g、1 kg、2 kg のおもりをもとに予想することで、計器を選択し、正しく重さを表すことができるようになる。 	20								
終末		<ul style="list-style-type: none"> ○ 計器がさしている目盛りの写真を撮ることで、測ったものはかりの表示を共有し、交流できるようになる。(ICT) ◇ 重さについて、およその見当をつけ、秤量や感量に気を付けて正しく量ることができる。 <p style="text-align: right;">【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予想と実際に量ったものの計器と重さを出し合うことで、より正確に量れる計器と重さを確認することができるようになる。 ○ 1 kg 500 g になるものの組み合わせを班で選ぶ活動をすることで、量の大きさについての感覚を身に付けることができるようになる。 ○ 振り返りの視点（わかつたこと・そのわけ・次に生かしたいこと）を示し、今日の学習を振り返ることができるようにする。 	10 5 5								